



Introduction

研修医日記

1年間の研修を終えて

二次研修医 田中 俊一



みなさんこんにちは。長崎みなとメディカルセンター市民病院基幹型初期研修医2年目の田中俊一です。

初期研修は早くも1年が過ぎ、針一本取り出すのにもビクビクしていた日が遠く感じる今日このごろです。

初期研修医は月単位で各科の研修を行うわけですが、私はこの1年間を通して心臓血管内科・消化器内科・呼吸器内科・血液内科・糖尿病代謝内科・脳神経内科・救急科・放射線科・麻酔科と様々な科で勉強をさせていただきました。当院は長崎市内では屈指の大病院になりますが、一つ一つの科の人数は大学病院に比べ少数で、3~5人程度で構成された科がほとんどです。そのため、研修医と指導医間の距離が近く、親密に指導して頂けます。ひとつの科を終え次の科へ進んだ後も病院内で関わりあう機会が多いため、一つの科を回ることによって面識のある先生方が増え、病院での生活が非常に居心地のいいものになっていきました。

新しい科が始まるたびに右も左もわからない状態でのスタートになりますが、上級医の先生方や看護師さんたちの手厚い指導で1・2ヶ月も経つとできることも多くなってきます。ちょうど慣れた頃合いに研修が終了し、新しい科へと異動になってしまうのが寂しいですが、培った知識や経験は救急外来当直で発揮することができるため、科を回った成果を実感できる機会が多いと思います。特に当院は救急外来当直で研修医がファーストタッチできるため、培ってきた知識や技術をいかに発揮するにはうってつけの環境です。自分には知識や技術に至らぬ点多々ありますが、上級医の先生方の優しい指導があるからこそ、常に挑戦する姿勢を崩さずに1年間を過ごすことができました。

残り1年とない研修期間で得られるものが多くなるかは自分の努力次第になりますが、この恵まれた環境で研修できる以上は最大限の知識と経験を吸収したいと思います。

